

玉川大学

教師教育フォーラム

「令和の日本型学校教育」構築のための
「新たな教師の学びの姿」の
実現に向けて

オンライン
配信

事前申し込み制

参加費無料

2022年 **10月30日**
9:30～15:30

2020年代を通じて実現を目指す学校教育「令和の日本型学校教育」をメインテーマに掲げ、教師教育リサーチセンターと教職大学院とが共催して開催します。

午前の部では、今後の現職教員の研修について、今まで教員免許状更新講習において貢献してきた大学が、これからどのようなかかわりを持っていけばよいのか、「新たな教師の学びの姿」について、様々なお立場からご報告を頂きます。

そのうえで、教育現場の変化の具合、さらに教員養成大学に求められる対応につき、本フォーラムを通して、皆様と共に考える機会にしたいと思います。午後からは、より具体的なテーマを定め分科会を行います。

申込締切

10月25日(火)23時59分

お申し込みは
こちら▶



主催
教師教育リサーチセンター
共催
教職大学院

後援
町田市教育委員会、稲城市教育委員会、神奈川県教育委員会、
横浜市教育委員会、川崎市教育委員会、相模原市教育委員会、
時事通信出版局、協同出版、日本語検定委員会、
玉川学園K-12

問い合わせ先
玉川大学教師教育リサーチセンター
〒194-8610 東京都町田市玉川学園 6-1-1
TEL: 042-739-7097 FAX: 042-739-8857
e-mail: t-kenshu@tamagawa.ac.jp HP: www.tamagawa.jp

プログラム

9:30～12:00 教師教育フォーラム

学長挨拶 小原 芳明

講演

- 「令和の日本型学校教育」構築のための「新たな教師の学びの姿」とは
小幡 泰弘 氏（文部科学省総合教育政策局教育人材政策課長）

シンポジウム

- 「新たな教師の学びの姿」の実現に向けた今後の研修の方向性
中嶋 富美代 氏（東京都教職員研修センター 研修部長）
- 「新たな教師の学びの姿」の実現に向けた校内研修の実際
笹原 信吾 氏（神奈川県藤沢市立滝の沢中学校 校長）
- 「新たな教師の学びの姿」の実現を目指した教員養成大学のかかわり方
森山 賢一（玉川大学教師教育リサーチセンター リサーチフェロー）

【コーディネーター】

笠原 陽子（玉川大学教師教育リサーチセンター 客員教授）

13:00～15:30 教職大学院 分科会

- 国語科の教材分析を考える
- 英語教育
- 社会科をもっと楽しく
- ICT教育

詳細は裏面をご覧ください。

分科会テーマ

国語科の教材分析を考える

一教材分析から「問い」へ

学習指導要領改訂から時間が経ち、「問い」の重要性が改めて俎上にのぼっている。そこで、教材研究を欠いたままでは、何も始まらないということが見直されつつある。

もう一度教材分析の観点や方向性、そこから子どもたちと共有していくべき「問い」とは何なのか、具体的に教材を取りあげて考え直す機会としたい。

ゲストスピーカー・担当教員

- 橋本 祐樹 氏 (世田谷区立等々力小学校・玉川国語教育研究会会長)
西田 太郎 氏 (東京福祉大学短期大学部・玉川国語教育研究会顧問
兼コーディネーター)
松本 修 (玉川大学教職大学院教授・玉川国語教育研究会顧問)

英語教育

子どもの学びを大切にしたい英語授業づくりを考える～学びをつなぐ、引き起こす～

新学習指導要領が全面実施となり、小学校高学年での教科としての英語の授業が始まるなど、英語教育を取り巻く環境は大きく変わりつつある。そうした中でも、本質である学習者の学びに視点を置いた授業づくりについて実践提案、研究方向を通じ、参加者と共に考えていきたい。

実践提案

- 「子どもが考える、気づくを大切にしたい授業づくり」
深野 瑞恵 氏 (横浜市立市場小学校けやき分校 教諭)
- 「聞くことを大切にしたい授業づくり」
八木 遥 氏 (横浜市立東品濃小学校 教諭)

- 「9年間のゴールを目指した授業改善と生徒の変容」
篠木 俊吾 氏 (横浜市立西中学校 教諭)
- 「生徒が学びをつなぐ6年間のラウンド型シラバスの実践」
西尾 彩 氏 (横浜市立南高等学校附属中学校 教諭)

研究報告

- 「5ラウンドシステムにおける外国語によるコミュニケーションへの自信を高める授業の視点」
小松 篤史 氏 (横浜市立西中学校 教諭)

コーディネーター 西村 秀之 (玉川大学教職大学院 准教授)

社会科をもっと楽しく

3D模型を活用して、考えよう

社会科は、問題解決的な学習を進めるにあたって、何を教材とするか、また、「資料」をどう作成し、活用するかということがとても重要である。今回、玉川大学メーカーズフロアにある3Dプリンターを使って、資料を作成し、それをどう授業で活用できるかを考えたい。また、地図や他の資料が立体になることで、学習者にはどんな効果があるのか、また、どのような授業が考えられるのか、ディスカッションする。

ゲストスピーカー・担当教員

- 平社 和也 (玉川大学工学部助手)
長田 進、伊藤 崇 (玉川大学教職大学院 院生)
高岡 麻美、梅田比奈子 (玉川大学教職大学院 准教授)
コーディネーター 山口 圭介 (玉川大学教職大学院 教授)

ICT教育

教育の未来を切り拓く1人1台端末を活用した授業づくり－相模原市の先進事例に学ぶICT教育－

2021年度から児童生徒1人1台端末を活用した授業が始まっている。文部科学省が実施したGIGAスクール構想端末の整備状況と課題の調査結果では、上位に「学習指導でのICT活用」と「教員のICT活用指導力」に課題があると回答した自治体が多かった。今回は、ICT教育の先進自治体である相模原市の「ICTの導入・活用のための体制づくり」や「授業実践」など、事例とともに紹介する。また、教員のICT活用指導力向上に向けた採用・養成・研修について、行政、大学、学校現場の立場から考察する。

ゲストスピーカー・担当教員

- 細川 恵 氏 (相模原市教育委員会 学校教育部長)
佐藤 修 (玉川大学 教師教育リサーチセンター非常勤講師)
木原 智裕 氏 (相模原市立九沢小学校 教諭)
今井 勉 (玉川大学教職大学院 准教授)

講演者プロフィール

小幡 泰弘

文部科学省総合教育政策局教育人材政策課長。
平成7年文部省入省。大田官房、生涯学習政策局、初等中等教育局、高等教育局等で勤務。その間、福島県教育委員会、在仏大使館、東京オリンピック・パラリンピック大会組織委員会等へ出向。平成29年4月初等中等教育局国際教育課長、平成30年10月高等教育局専門教育課長、令和元年7月内閣官房副長官補付参事官、令和3年7月より現職。

中嶋 富美代

東京都教職員研修センター研修部長。
東京都内公立中学校で教諭等として勤務した後、市部の教育委員会指導主事、公立小学校副校長、東京都教職員研修センター統括指導主事、東京都教育庁において指導部主任指導主事、総務部教育政策担当課長、指導部企画推進担当課長、指導部義務教育指導課長を歴任し、令和4年度より現職。

笹原 信吾

開校40年目を迎える神奈川県藤沢市立滝の沢中学校校長。
神奈川県藤沢市立中学校で教諭として勤務の後、藤沢市教育委員会教育指導課指導主事、藤沢市立小学校教頭を務め、神奈川県教育委員会湘南三浦教育事務所指導課長を経て令和2年度より現職。

森山 賢一

玉川大学教育学研究科教授、教師教育リサーチセンターリサーチフェロー。専門は教育内容・方法学、教師教育学。特に教育の理論と実践との結合を目指すことによって、教育実践に関する研究水準の向上に取り組む。町田市教育委員、(独)教職員支援機構特任フェロー、中央教育審議会臨時委員など。

笠原 陽子

玉川大学教師教育リサーチセンター客員教授。
独立行政法人教職員支援機構玉川大学センター 担当。
玉川大学大学院教育学研究科教職大学院教授、神奈川県内の小中学校教諭、中学校長を務め、神奈川県教育委員会子ども教育支援課長、支援部長、教育参事監、教育監、顧問を歴任。現在、神奈川県教育委員会教育委員を務める。